

## フランス革命の場

### 革命裁判所

1790年、パリ市長によって、パリ議会の中核であったパレの入り口が封印されました。1793年3月には、大部屋に革命裁判所が設けられます。7月にロベスピエールが公安委員会に加わると、美徳と恐怖に基づいた計画が実行されていきます。「反革命容疑者法」によって、フランス革命のあらゆる敵対分子が、公認・容疑のいかんを問わず逮捕されました。

1793年から1794年には、2700人以上の人々が、裁判所の訴追官フーキエタンヴィルの前に出廷しました。この中にはマリー・アントワネットやロベスピエールが含まれています。

著名人物の裁判は、集団制裁刑に変更されません。1794年、証言者や弁護者らが次々に抹殺され、一日に数十人単位の人々がギロチン台に送られました。

革命裁判所は、ロベスピエールの失権を受けて、1795年5月に解散します。

### 牢獄での日常生活

コンシエルジュリはもっとも厳しい牢獄として知られていました。恐怖政治\*期には、数百人に上る人々が投獄され、すし詰め状態の非常に不衛生な環境を強いられていました。1794年に至るまで、「反革命容疑者」は普通の犯罪者と同じ牢屋に入れられました。囚人たちは出廷前夜に、「ジュルナル・ドュ・ソワール」または起訴状によって、裁判の開始時刻や告発内容について知らされていました。

陪審員の評決が下されると、死刑囚には最後のご馳走が振舞われました。

## 用語集

**祈祷所**：祈りを捧げるための場所

**恐怖政治**：君主制の崩壊から1794年末までの、行政議会およびパリの革命的自治団体が実権を掌握していた時期。ロベスピエールと「山岳派」によって、共和国内外の敵対者が処分された激しい政治

**ジロンド派**：1791年に、ジロンドの議員を中心に結成された党派で、とりわけ急進的であった

**親裁座**：権力を強制する王が取り仕切った高等法院の会議

**柱頭**：アーチの起拱点となる支柱の頂きに配された切石や彫刻

**パイユ**：囚人の中でも最も下層に区分され、わらの上に寝かされた

**ピストリエ**：寝台付の牢を得るために、ピストルを売って支払った囚人

## 役に立つ情報

見学に要する平均時間：1時間15分  
身体の不自由な方向けの特別見学あり



国立モニュメントセンターは、フランスのモニュメントに関するガイドシリーズを翻訳版で出版しています。文化・歴史遺産バージョンは書店ブティックにて販売しています。

Centre des monuments nationaux  
Conciergerie  
Palais de la Cité  
2 boulevard du Palais  
75001 Paris  
tél. 01 53 40 60 97  
la.conciergerie@monuments-nationaux.fr

[www.monuments-nationaux.fr](http://www.monuments-nationaux.fr)

# コンシエルジュリ

## パリ裁判所と牢獄

### フランス王の住居

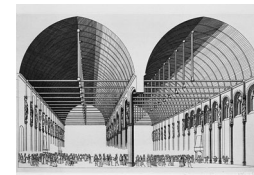
6世紀、フランク族王の初代王クロヴィスが、シテ島に王居を構えました。5世紀を経て、カペー朝初代王のユグ・カペーが、評定院および行政機関をシテ島のパレ（王宮）内に設け、王権の中核としました。

### 王権の象徴

14世紀、祖父のサン-ルイの意思を引き継いで、フィリップ4世端麗王がパレを威信ある君主制のシンボルとし、やがてパリ議会の中核となりました。

### 裁判所と牢獄

14世紀末、シャルル5世は、父親の議員らが暗殺されたのをきっかけに、シテ島の王居を後にしてサン・ポール宮（以後取り壊される）に移り住みました。パレは、パレと牢獄を



管理する権利および司法権を与えられた、守衛「コンシエルジュ」によって管理されることとなります。

パレには、アンリ4世の暗殺者ラヴァイヤックなど、多くの国事犯が収容されていました。後に革命裁判所となり、牢獄としての役割が強化されます。1914年、コンシエルジュリは歴史建造物に認定されています。

## 中世の間

低層部は、今日唯一残されている部分で、王立衛兵や、王および王族に仕えた約2千人の人々（聖職者、士官、使用人）のための場所でした。中世の間の床の高さは、14世紀以来変わっていません。19世紀に河岸部が設けられ、シテ島内の残りの部分が持ち上げられたため、他の建物の高さは吊り上げられました。

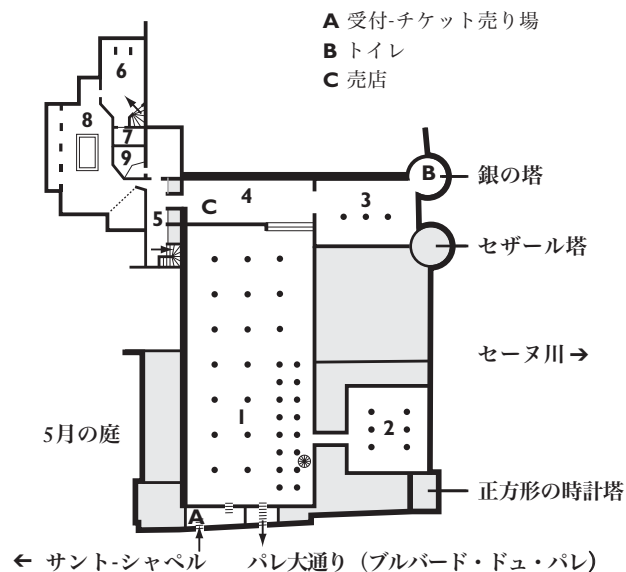
**1 憲兵の間** は1302年、フィリップ端麗王の時代に建設された、ヨーロッパ唯一のゴシック式民間建築の例です。リブヴォルト式の4つの「広間」から成り、対になった窓からふんだんな光が差しこむようになっていました。この窓跡は左側の壁に見られます。広い食堂広間では、4つの暖炉によって暖が取られていました。左側の壁には、黒大理石製テーブルの一部が残されています。このテーブルは、パレ上階の豪華なグランド・サル（大広間）で行われた、カペー王朝の絢爛豪華なレセプションに用いられていたものです。今日姿を消したこの広間には、複数の螺旋階段を通って行き来がなされていました。このうちのひとつが、広間の右横に現存しています。

**2 台所棟** は、ジャン・ル・ボン支配下に(1350~1364)建築され、王の使用人たちによって使われた棟で、1階部分のみが残っています。食料品は、河川ルートによって直接届けられていました。

**3 見張りの間** は憲兵の間と同時期のもので、中央支柱の柱頭\*には、エロイズとアベラルが表されています。

この部屋は、上階にある王の主寝室の控えの間として使用されていました。この主寝室は今日残されていませんが、ここでは王によって会議や「親裁座\*」が開かれていました。1793年には革命裁判所となりました

**4 リュー・ド・パリ** という命名はムッシュー・ド・パリという革命期の死刑執行人の名に由来し、パイユ\*の投獄に使用されました。この空間はもともと憲兵の間の一部分でしたが、15世紀には切り離されて、高さが持ち上げられました。



## 革命の間

1776年の火災の後、ルイ16世によってコンシエルジュリの牢獄が近代化され、フランス革命時に使用されました。

**5 囚人の廊下** は牢獄の主軸をなし、囚人たちが自由に行き来することができました。

ここには、記録帳に囚人の動きを記録する書記官の書斎、革命期に囚人の責任者となった守衛の書斎、囚人が処刑前に私物を提出した支度部屋などが再現されています。上階では、階段の左手の部屋に、恐怖政治\*期にコンシエルジュリ内に拘置された囚人のリストがあります。一連の独房には囚人のカテゴリー—「パイユ\*」、「ピストリエ\*」、「高貴の者」—が表されています。隣接する部屋では、物品とパネルによって、5世紀半に渡るコンシエルジュリの牢獄の歴史がたどられています。

**6 「ジロンド派」の礼拝堂** は中世期の王の祈祷所\*跡にあります。ここでは、1793年10月30日の処刑前に、ジロンド派\*の21人の議員によって宴会が開かれました。

**7 マリー・アントワネット記念礼拝堂** は、1815年に王女の牢屋跡に整備されたものです。

**8 女たちの庭** は、二階建ての女性囚人の独房舎に囲まれ、女性たちが洗濯を行っていた噴水、食事のための石造りのテーブルがひとつ、「12人の一角」または最後の別れと呼ばれた場所が残されています。

この場所で、12人ごとに分けられた処刑者が、処刑台へ連れて行かれるための二輪荷車を待ちました。

**9 マリー・アントワネット牢** は復元されています。その一部は、実際に王女の牢屋が存在した場所にあります。二人の憲兵が常時警備についていました。